

令和4年度 さいたま市立本太小学校 第1回学校運営協議会 議事録

【日 時】 令和4年7月5日（火） 13時30分～15時00分

【場 所】 本太小学校 南校舎3階 コンピュータ室

○議事録

1 開会

2 あいさつ

- ・校長あいさつ

3 委嘱状・任命書交付

- ・委嘱状、任命書を交付

4 委員長・副委員長選出

5 説明及び協議（司会：委員長）

（1）令和4年度学校経営方針等について

○校長より、配付資料にて以下の点について、説明

①教育課程の編成に関すること

- ・特に、今年度から本格実施となった教科担任制について詳細を説明。

②学校経営方針に関すること

- ・学校経営方針の柱、昨年度までの「心をこめて～全ては子どもたちのために～」に、今年度は「幸せ」を加え「子どもたちの幸せのために」とした。また、昨年度、学校運営協議会準備委員会熟議で出された内容を踏まえ、以下の柱を示した。
- ・1点目の柱として、「主体的に考え、行動し、豊かに交流できる児童を育む教育活動」を推進する。このために、教師の指導力の向上、タブレットの活用・SDGs教育・STEAMS教育等の教科横断的学習の推進、教科担任制の推進、学力学習状況調査分析による指導の工夫等も行っていく。
- ・2点目として、道徳教育を要として、「他者と豊かにかかわり、節度ある児童の育成」を図る。このために、「笑顔あふれる児童の育成」「礼を尽くし、時を守り、場を清める児童の育成」に取り組んでいく。
- ・3点目として、「保護者・地域との連携強化による、信頼される学校づくり」を推進する。コミュニティスクールの推進とともに、保護者・地域との連携強化を図っていく。
- ・4点目として、「組織の力が充分発揮され、誰もがやりがいを感じる学校

づくり」を推進する。特に、「働き方改革」に取り組む。

③組織の編成に関すること

④予算の執行に関すること

・特にペーパーレス化を進め、紙、インク代の削減を図る。

⑤学校自己評価シートに関すること

・今年度、新たなシステムになったことの説明。

⑥その他

・懸案であった、トイレ改修工事が行われることの説明。

(2) 学校運営に関する基本的な方針の承認

○質疑応答

①G I G Aスクール構想についてももう少し詳しく説明をお願いしたい。

・一人ひとりにタブレットを配付し、オンライン授業を可能にした。画面上で交流ができるのも特長。また、その子に応じた教育の実施が可能。

②S T E A M S教育についてももう少し詳しく説明をお願いしたい。

・科学的思考を育てる教育のことで、サイエンス、テクノロジー、エンジニアリング、アート、マス(数学)、それぞれの英語での頭文字に、さらにスポーツのSを付けて、S T E A M Sとしている。

・今年からスタート。具体的には、プログラミング学習など

・教科横断的学習で、ということがポイント。

○「学校運営に関する基本的な方針」についての承認

・質疑応答の後、司会の進行により委員の皆様より「学校運営に関する基本的な方針」について承認をいただいた。

(3) 熟議『「児童につけたい力」実現のために、『学校・家庭・地域がそれぞれ担って取り組めることは何か』

・学校教育目標における昨年度からの重点「心の豊かな子」に絞って行う。

・令和3年度学校運営協議会準備委員会での「児童につけたい力」の意見をもとに行う。

・出された意見を、次回までにそれぞれまず実践し、その成果等をもとに、次回の熟議でさらに深めていく予定。

以上3点について、事前に周知の上熟議を行った。

A 保護者グループ

○「自分を大切にできる力」育成のためにできること

・将来のことを考え、様々な体験をさせる。

・家事を積極的にさせる。

○「コミュニケーション力」育成のためにできること

- ・地域などのイベントに積極的に参加させる。
- ・子どもが意見を述べるには時間が必要。親はぐっと我慢し、子どもの意見に先回りしない。

B 地域グループ

○「コミュニケーション力」育成のためにできること※ これに絞って協議した。

- ・公民館・・・「本太サマースクール」で講座が始まる。この活動を通し育成したい。
- ・町会・・・「お祭り」の開催を通しての育成を考えていたが、コロナ禍のため、これに代わる活動ができないか検討している。
- ・育成会・・・「夏のお楽しみ会」（※コロナ禍の為中止）及び「秋のドッジボール大会」（同時に「思いやりの心」も育成できる、大切な取組と考えている。コロナ禍ではあるが方法を工夫し実施の方向で準備中）の実施で育成する。

C 学校グループ

- ・「本物を見る」取組を重視する。（技術や、芸術等を体験する→「自分を大切に」する）「色々な優れた力をもった人がいる」を知ることができる。）
- ・体験活動の充実として、小・中合同の活動、例えば「挨拶運動」などができたらよい。ここで、地域の方や中学生・高校生と関わったりすることによって、「コミュニケーション能力」が育まれる。
- ・こういった活動や行事を地域の方や中学生・高校生と連携しながら、児童が主体となって運営することができたら、「コミュニケーション力」も増すし、一緒に活動することによって、思いやりをもつことや相互の認め合いも醸成できる。また、自分が地域や人々の役に立ったと思うことができれば「自己有用感」「自己有能感」が育成できる。
- ・コロナ禍でなかなかこうした取組が難しい状況にある。このため、まず学校内で、学級・部活・クラブ活動・委員会活動を教師任せにするのではなく、自治的に行えるようにしていく。そのためには、教員が出すぎてはいけない。児童の活躍の場を奪ってしまう。
- ・これらの力は、やはり授業で育成していかなければならない。

6 諸連絡

- (1) 横断幕掲載フレーズ選出について
- (2) 次回以降の日程について

7 閉会